



メルボルン子育て日記

9

娘の通う小学校の入学説明会で、校長先生がとても印象深いお話をしてくれました。

「皆さんは、子どもたちのためにどのような教育をするべきだと思いませんか？ 数十年前には、さまざまな分野で想像もつかない変化が起こっていることでしょう。自分たちが子どものころと同じような教育でいいと思いますか？ 私たちは、今の子どもたちが将来の移りゆく時代を生き抜い

ていくための教育をしていかなければなりません。未来を見据えた教育が必要なのです。これからは確実にボーダーレスの時代がやってきます。地球の一員であるという意識を強く持って、よりよい地球をつくり上げる地球人を育てる教育が求められているのです」。

この発言から、オーストラリアの目指す教育がどこに向かっているのかを垣間見ることができませんか。実際に学校での

学習活動を見てみると、
①地球人としての視野を育てる
②時代の変化や厳

しい状況の中でも生き抜く力を育てる（問題解決能力の育成）に焦点



和太鼓の演奏を聴く子どもたち。日本文化に触れる貴重な機会です

をあてた活動をしているようです。

例えば、外国語教育を通していろいろな文化があることを理解し、コミュニケーションの幅を広げる学習をしています。娘の通う小学校では日本語が教えられていて、言葉の学習だけでなく、日本人ゲストが和太鼓や寿司作りを紹介して日本の文化に触れる活動もしています。そのほか、学校全体で地球温暖化を考える楽しいイベントも開かれています。

また、低学年から積極的に自分で問題を探し、コンピューターを使って

調べたりディスカッションをしたりします。天気、動物、植物などのテーマを中心とした学習では、英語、算数、社会、理科、音楽、図工など教科の枠を超え、1学期間ゆっくり時間をかけて同じテーマに取り組みます。

例えば今学期のテーマが「天気」なら、英語の時間には「天気」についての詩を書いたり、音楽の時間には晴れ、雨、嵐など「天気」を楽器で表現したりします。日本語の時間では、てるてる坊主を作ってその歌を歌います。ユニークな総合学習の方法ですね。

（新山直子、メルボルン在住）

（日曜日に掲載）

地球人育てる教育

子どもの未来見据えて